

コミュニティ助成事業で 備品を整備しました

篠井区では、お祭りや球技大会などに使用する視聴覚機器などの老朽化が進み、区のコミュニティ活動に支障を来していました。

今回、(財)長野県市町村振興協会のコミュニティ助成事業(宝くじの普及広報事業)を活用して、テレビ、BDレコーダー、テレビラック、ビデオカメラ、ノートパソコン、カラープリンター、石油ストーブ、石油ファンヒーター、マイク、アンプ、マイクスタンド、コピー機、机を整備しました。

この事業により、区では区民の地域行事への参加を促し、区民の触れ合いを通じて伝統文化の継承とコミュニティ活動の一層の推進が図られます。



篠井区で新調した備品
(写真上・写真右)

宝くじは
豊かさを
チカラ持ち。

本人確認を行います



戸籍や住民登録の届け出、証明書の発行を申請される場合、運転免許証などによる「本人確認」を行っています。

市役所市民課などの窓口にお出かけの際は、次の①、②を必ずお持ちください。

①印鑑 ②運転免許証または顔写真付き住民基本台帳カードまたはパスポート(ない場合、健康保険証、学生証、年金手帳など、公的機関発行のものから2点をご用意ください)

※事業者の皆さんは①、②に加え、相手方との契約書、社員証または会社からの委任状、登記事項証明書などが必要です。

問い合わせ先
市役所市民課窓口係
☎(22)2111(内線236)
豊田支所地域振興課市民生活係
☎(38)3111(内線131)

職員採用試験

平成22年度市職員採用初級試験(土木)を行います。受験を希望される方は、市役所庶務課・総合窓口案内、豊田支所地域振興課、北部・西部の各公民館、永田窓口サービスステーションにある受験案内で受験資格などを確認の上、所定の試験申込書により申し込みをしてください。

なお、受験案内・試験申込書は、市公式ホームページからダウンロードいただけます。

受験申し込み 市役所庶務課職員係
問い合わせ先 ☎(22)2111(内線209・213)

試験区分	採用予定人員	受験資格		1次試験 日時・会場	試験申込 受付期間
		生年月日	その他の要件		
初級試験	土木 若干名	昭和57年4月2日 ～ 平成5年4月1日	日本国籍を有し、高等学校の土木専門課程卒業程度の学力を有する者 ※その他資格要件については、受験案内をご確認ください	10月17日(日) 午前8時45分 ・ 市役所会議室 ※試験科目については、受験案内をご確認ください	9月2日(木) ～ 9月15日(水)

教育委員会だより

No.42 編集/中野市教育委員会

教育を拓く知恵

「身体を動かし、頭を働かせ、心に感じる体験学習」



70人という小規模校の良さに立ち、地域の豊かな自然や文化の持ち味と地域の方々の教育力の支援を通して、学校目標『自ら学び自ら考える子ども』の育成に取り組んでいます。

本校の子どもたちの学びの一つに、「身体を動かし、頭を働かせ、心に感じる」体験学習があります。そこで、三つの活動場面を通して、小学生の体験学習の大切さについて考えてみましょう。

やる気を育てるために

1年生の朝顔の学習です。「石ころをみたい。」と、手で触って種の観察をしてから種

- 1年生：朝顔の栽培
- 2年生：羊の世話
- 3年生：地域探検
- 4年生：飯山養護学校との交流
- 5年生：稲づくり
- 6年生：野菜の栽培

学年別の体験学習

まきをしました。数日後「葉っぱの数は18枚。もうちょっと出てきます。もうちょっとがんばってね。」と、思いを朝顔にかけていました。

羊のメイちゃんの世話をしている2年生は、下に落ちた餌を食べないメイちゃんのために、どんな餌箱がいいか考え続けています。飯山養護学校と交流している4年生は、「自分たちだけが楽しければいいのか。」と、相手の思いに寄り添い始めています。



地域の人と交流する子どもたち

身体や頭、心を使った活動をする中で、つまづきながら問題解決する力を身につけていきます。大人は子どもが失敗しないように、先回りしてしまいがちですが、何度も工夫して解決したときに自信の根っこが育っていきます。

家の手伝いでも叱らないで、どう解決していくか見守っていききたいものです。

子どもは地域の力で 広く深く学びます

年間10時間を通して、子ども

『倭じゅく』は3年生から6年生・約54人が、得意分野を持つ地域の皆さんから学ぶ学習です。分野は料理や工作、マレットゴルフ、音楽や染色などで、

たちと地域の皆さんが知り合う契機となり、双方の距離が一層縮まりました。

地域の皆さんは子どもたちに、さらに細やかな目配りをしていただき、互いあいさつが交わしやすくなっていました。子どもたちは地域の皆さんのすばらしい特技に感動し、尊敬の心情を培っていききました。

異年齢集団の活動で 自分を確かめています

このように、学校と地域が双方向でかわり合う『学社連携』の営みの中で、子どもたちは確実に育っています。

「ゆっくり走り走ったつもりだったけど、気づけばすごく速く走っていました。捕まえた1年生の手は私の半分ぐらいの大きさしかありませんでした。ちっちゃいと思いました。背は私のひざ立ちぐらいしかありません。私にもこんなときがあったのかなあと思いました。」(6年女子)

これは1年生と遊んだ後の6年生の感想の一部です。異年齢集団で活動する中で、かつての自分自身を振り返り、小さな子への慈しみの心があふれています。

同年齢集団では、切磋琢磨



異年齢集団活動の様子

つたり、劣等感に悩まされることもあり。異年齢集団の活動は過去の自分を思い起こしながら、自分の成長を確認し、自分が必要とされていることを体得する場ともなっています。

子どもたちの学びは教室の「座学」だけでなく、体験学習の中で、身体を動かしながら知恵と感性を磨きます。家庭生活では動物の飼育から料理まで、幅広い活動の場があります。そこで、しばしばわが子の意外な成長と出会うことがあります。

市民教育懇話会開催
9月27日(月) 中央公民館
10月6日(水) 北部公民館
10月26日(火) 豊田文化センター
※各会場とも午後6時30分～8時30分